

会議録

会議の名称	平成28年度 西東京市青少年問題協議会 第1回
開催日時	平成28年7月6日（水） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5階 502会議室
出席者	委員：住田副会長（座長）、石井委員、遠藤委員、金原委員、小峰委員、佐藤委員、田中委員、西嶋委員、西原委員、早川委員、山崎委員 事務局：市長、子育て支援課長 飯島、児童青少年課長 齋藤、児童青少年課課長補佐 國府方、子育て支援課調整係 栗林、田中、留目 欠席者：高橋委員、田口委員、納田委員
議題	1 平成28年度第1回及び第2回青少年問題協議会専門部会報告について 2 その他
会議資料の名称	・会議次第 資料1 西東京市青少年問題協議会委員名簿 資料2 平成28年度第1回及び第2回青少年問題協議会専門部会報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>◆委嘱式 ◆市長挨拶</p> <p>・平成27年度第4回会議録の承認</p> <p>・審議</p> <p>1 平成28年度第1回及び第2回青少年問題協議会専門部会報告について</p> <p>○A委員：</p> <p>市内の市民活動団体についての調査内容を協議した。</p> <p>青少年を支える活動を洗い出した結果、無料学習塾、田無公民館での子ども食堂の活動、ひばりヶ丘児童センターでの青少年への活動等、様々な活動があった。その中で3つの団体に絞込み、ヒアリングと現地見学によって調査することとした。</p> <p>1つ目は、児童養護施設である「聖ヨゼフホーム」。それぞれ事情をかかえた児童が生活している。地域の中で交流しながら子どもたちを育てたいという現所長の思いを、ほとんどの部会員が知っていたので、協議会独自の視点でお話を聞いてみたいということになった。民間・行政・地域の人間が各レベルできることに焦点を当てたい。</p> <p>2つ目は、子ども食堂の実践的な例である「放課後キッチンごろごろ」。社会福祉協議会で借りている家を拠点に地域活動をしている方たちが、子どもたちのために居場所を提供し、月2回は夕食の提供もしている。こちらに見学に行き、取組概要と運営の様子、その他どのような気づきや問題点があるかを伺いたい。</p> <p>3つ目は、無料学習塾である「猫の足あと」。個人の方が自宅を開放して無料の学習塾をやりながら、子どもに夕食を提供し、夜にかけて一緒に過ごす取組みを長い間行っている。この度は退職金でアパートを作り、養護施設を出た直後の方々に低家賃で住まいを提供する取組みを始められた。特に個人で活動を始めた理由、自己資金での取組み</p>	

への委員の関心も強く、そのあたりも含めて伺い、活動を見学したい。

取材することで、行政では何が出来るか、どういうネットワークが作れるかを考察したい。子供たちが何らかの支援につながることで、だれかが子供たちを救えるのであれば、いろんな団体の活動を広く周知することを最終目標に置きながら取組んではどうかということになった。

B委員：

専門部会員でなくても、チャンスがあれば調査と一緒に行かせていただきたい。

C委員：

3つの活動の対象年齢はそれぞれどのくらいなのか。

A委員：

聖ヨゼフホームは2歳から18歳で、子ども食堂は主に小学生、無料学習塾は主に中高生だが、小学生も来ている。

D委員：

塾は、都立高校入学を希望している中学生の利用が多い。

C委員：

学習塾の利用者は何人くらいなのか。

A委員：

調査の中で確認したい。無料学習塾はほかにもあるが、今回対象としたところは、食事提供していて居場所的なことが特徴だ。

E委員：

少年事件、家事事件で接する子どもたちの中には、いろいろな苦勞をしている人もいる。社会のネットワークの中でどうケアされているのか興味を持っている。

F委員：

聖ヨゼフホームは、様々な意味で地域の人とのかかわりと支援を望んでいる。協議会委員全員で訪問しても、喜んで受入れてくれるのではないか。

子ども食堂は、全国的にかなり数が増えている。それぞれの特色の比較も、これからやるべきことになると思う。

G委員：

ヒアリングした内容は、ほかの学校のPTAの会長たちに報告してもいいのか。

副会長：

守秘義務の部分に注意すれば、現状を知っていただくにはいいと思う。

H委員：

見学のときに、聖ヨゼフホームのプライバシーとかプライベートな部分にどのくらい踏み込んでいいのか懸念がある。

子ども食堂は、その場で子どもへの対応としてはいいが、家庭はどういう責任を果たしているのかという視点も必要だと思う。問題はもっと本質的なところにあるのではないか。子ども食堂を運営されている方々が、そういう面をどう考え、かかわりを持っているのかを知りたい。

副会長：

確かに、子ども食堂を見ると、親の問題が見えてくる気がする。

保護司の経験から見ると、根本的には親の問題が大きくても、親を更生させるのは難しいので、子どもの自立を早期に促すということが結構多い。

I 委員：

プライバシーの問題はあるが、一步踏み込んでやらないと、何も解決できないのではないかと思う。地域が踏み込もうとするとプライバシーとか「ウチはウチ」というような問題が必ず出てくるため、何か権限がないと難しいところがある。

G 委員：

プライバシーが発展して個人主義という考え方があるようだ。最初は個人情報を守る、プライバシーを大事にするというものだったのが、「うちはうち」という方向にあって、常識がだんだん薄れてきている気がする。

副会長：

各家庭の壁が厚くなってしまっていて、家の中が見えなくなっているというのが現実だと思う。都会では地域の中で連携が取れていない気がする。

F 委員：

昔は近所の人がお互いに声を掛け合って育てていた。今は声をかけたら怪しがられる。子どものためにどういう声掛けをしていいのかわからない。

SNSの進展によって、少年たちだけで連絡を取り合って郊外で事件を起こしてくる。地域で子どもを育てることが難しい時代になっている。

H 議員：

若い人たちは学校とか幼稚園の送り迎えを通じた顔なじみとかを利用して、地域ということは考えない、という現実がある。

昭和30年代くらいまでは農家を中心にした本家・分家の関係が多く、地域というものを知っていた。昭和30年代後半からどんどん人口が増えて、かかわりが希薄になった。地域のしきたり等は昔のことで、今には通用しないことがある。地域の中で今風のものを作っていく必要があると感じる。

I 委員：

地域とは、場所ではなくて、意識のある人の集まりのような感じだと思う。今は地域

の中に学校があるのではなくて、学校に対して意識を持って集まった人たちが地域のようになっていく。昔よりも地域が狭く小さくなっている気がする。それは乗り越えないと、みんなが傍観者になってしまう。聖ヨゼフホームのように「是非交流したい、理解してほしい。」というところがあれば、われわれが理解したものを周囲に知らせる義務があるのではないかと思う。

副会長：

専門部会から出てきたこの3つの活動を、見学したいと思うがいかがか。

B委員：

受入れてくれるなら是非行きたい。

副会長：

専門部会員は皆で行くことになると思う。部会員以外の方でも参加希望ある。現実を知るために、守秘義務を守った上で委員全員で行きたいと思うが、皆さんいかがか。

(賛成の声有り)

副会長：

では皆さんで見学をして実態を見てきた上で、協議をさせていただきたい。

H委員：

3つ全部に参加するのか。

副会長：

見学したいところに参加するというところでよろしいかと思う。実施の都度出欠を確認する。

以上にて終了。

◆各委員の情報交換

次回の協議会はあらためて調整する。